

令和2年度 豊かなむらづくり全国表彰事業
東北ブロック受賞事例の概要

【東北農政局長賞】

Sustainable Farming（食と共に環境を守る）

- 団体名 農事組合法人 かんざき 門崎ファーム（代表 ふじえ 藤江 おさむ 修）
○所在地 いわて けんいちのせきし 岩手県一関市

○むらづくりの背景・経緯

一関市は、岩手県の南端に位置している。門崎地区は、一関市のほぼ中央に位置する川崎町の西北部にあり、東西に国道284号及び南北に県道が走り、内陸部と沿岸部を結ぶ交通の要衝となっている。

門崎地区内の水田は、昭和20年代に10アール区画に整備されたものの、農道も狭小で用排水路は兼用の土水路であった。さらに地下水が高く、ほとんどが湿田であったため、効率的営農の展開や農地の集積が進まない状況となっていた。

また、農家の状況は、農業従事者の高齢化と担い手不足、ほ場条件が悪く労働生産性が著しく低いなどの問題点が存在していた。このような情勢の中、河川改修とあわせて基盤整備事業が進められることとなった。平成19年には具体的な営農推進組織として門崎ファームの前身となる門崎地区農地管理組合が設立され、その後、メダカの保護のための「メダカ水路」などの様々な施設を整備しながら、基盤整備事業は平成25年に完了し、同年、従来の個別営農から法人化による集落営農を実現すべく農事組合法人門崎ファームが設立された。

○むらづくりの内容

（1）農業生産面

水稻の60kg当り生産コストは、事業前と比較し57%も削減され、同法人が当地区の担い手となることにより、門崎地区の受益面積の81%が集積され、そのうち90%が集約化された。これにより、担い手への管理作業委託で生じた余剰労働力を活用して野菜栽培による農家所得の向上を図るとともに水田の環境整備などを実施している。

また、メダカを核とした「門崎めだか米」等の各種製品の開発及びオンラインショップの開設などを通して、生産だけでなく販売活動も積極的に展開し販路を拡大している。



オール岩手にこだわった日本酒

（2）生活・環境整備面

同法人が中心となり、地元住民をはじめ、一関市、一関東部土地改良区、JAいわて平泉、そして岩手大学の教員・学生からの協力を得て設立された「門崎メダカファンクラブ」により、「お田植会」、「メダカ観察会」及び「収穫祭」などのイベントが毎年開催され、地域住民と全国のファンが一体となり、メダカと農村環境保全に対する理解を深めつつ、地域全体が保全活動に積極的に取り組んでいる。



お田植会